館内の廊下には、登山愛好家が撮影した美しい山々の写真が飾られている

湯治場として400年の歴史を持つ葛温泉の宿。プロモーションに注力して新たな集客を

葛温泉 高瀬館

代表
上條慶一郎

1977年大町市生まれ。葛温泉で父が営む旅館を継ぐため、高校卒業後に上京し専門学校で簿記を学んだ後、都内の料亭で修業を積む。26歳でUターンし、20代で代表に就任。葛温泉育ちゆえの美肌の持ち主。

北アルプスの大自然に包まれる静かな露天風呂。湯は透明度が高く、体の芯から温まる。露天風呂は男女で違う源泉から引いている

高瀬川のほとりの地下からポンプアップしている源泉、加水用の沢水など、複数の管を組み合わせて適温の湯に

内湯の浴槽は「あつめ」「ぬるめ」の2種類。豊富な湯量を生かした贅沢な源泉掛け流し

湯治場として愛された信州の秘湯

大町市の高瀬渓谷のほとりにある静かな温泉地、葛温泉。発見は約400年前にさかのぼるとされ、農閑期になると農家の人が疲れを癒しに訪れる場として愛されました。現在、高瀬館を含む3軒の温泉宿が営業しています。

間近に迫る北アルプスの自然を眺める高瀬館の露天風呂は、まさに秘湯と呼ぶにふさわしい落ち着いたロケーション。お湯はすべて源泉掛け流しで、湯量豊富な2つの源泉から湯を引き入れています。源泉の一つは弱アルカリ性で傷の治癒や美肌に効果があるため、湯治場として古くから評判を呼びました。ゆっくり浸かると体が芯から温まり、肌の保湿効果も抜群。大町市内はもちろん、信州新町や穂高から毎日のように通う常連客もいるのだそう。

約90℃と高温の源泉への加水には、高瀬渓谷の清涼な沢水を使っています。天然の沢水ゆえ雨の翌日は色が変わったり、落ち葉で詰まったりすることも。高瀬館4代目館主の上條慶一郎さんは日常的に水源まで足を運び、清掃などの管理を行なっています。

高瀬館と北アルプスの山小屋2軒を営む一族で生まれた上條さん。高瀬館はかつて、高瀬川のすぐ隣に立っていました。しかし上條さんが生まれる前の1969年、大雨による大水害に見舞われ、葛温泉の旅館3軒はすべて流されてしまいます。その後、お祖父様の努力によって以前より約50m高い現在の場所に再建した歴史があります。源泉は高瀬川の真横の地下にあり、現在はポンプを使って引き上げています。

料亭の修行経験を生かし、地元素材のおいしさを引き出す

子どもの頃から厨房に入り、川魚をさばいたり野菜の下ごしらえをしたりと、手伝いが日常の一部だった上條さん。後継ぎの道を選んだのも、自然な流れだったと振り返ります。

「高校卒業後は東京の専門学校で経理に役立つ簿記を学び、その後は都内の料亭で板前修行をさせてもらいました。外注したらコストがかかる仕事は、自分で技術を身につけておこうと考えたんです」

修行を終え、20代で実家にUターン。お父様の急逝により、ほどなくして経営や温泉管理を一手に担うことになりました。

「当時は何をどうすれば良いかも分からず、大変でしたね。特に温泉を引くパイプ設備の仕組みは複雑で、管理に苦労しました」

それでも周囲の協力を得ながら、奥様と二人三脚で乗り越えてきました。現在も業務は夫婦で切り盛りし、休日は二人のお子さんが配膳などを手伝うこともある家族経営。山小屋を閉めた秋冬は、親族が手伝いに訪れることもあります。

Uターンして20年、ずっと厨房に立ち続けている上條さん。料理のこだわりは、地元・大町の素材を生かすこと。山で採れた山菜やキノコ、川魚を使った季節の料理を提供し、冬は大町の生活の知恵である塩漬け保存した野菜やキノコを使って、旬の時期とは違う味わいを届けています。

「真冬になると旅館業は落ち着きますが、保存食作りで忙しいんです」と笑います。

もっと多くの人に高瀬館を知ってほしい

北アルプスの裏銀座と呼ばれる登山ルートの拠点に位置する高瀬館は、昔から登山客に人気の宿です。かつては野鳥観察や渓流釣りを楽しむ団体客も多く訪れましたが、近年はライフスタイルの変化やコロナ禍の影響で少人数の宿泊客がメインに。従来、宿泊客の食事は大広間で提供していましたが、コロナ禍に支給された補助金を使って食事用の個室を新設しました。

長年の課題が、温泉成分の影響で設備が壊れやすいこと。2022年には温泉を引くパイプの不調で湯が出なくなり、信用保証協会の保証付き融資を受けて大規模な工事を実施しました。その際に同協会から提案されて利用したのが、小規模事業者が抱えるさまざまな経営課題に対応する公的相談窓口「長野県よろず支援拠点」。上條さんはここで観光業のコンサルタントの紹介を受け、主にプロモーション方面でさまざまな提案を受けました。

「コンサルタントの先生の提案で新しく宿のロゴマークを作り、タオルや箸袋をリニューアルしました。開設準備中の公式LINEやSNSのアイコンにも使っていきたいと考えています」

ロゴマークのモチーフになったのは、上條さんの実家の屋号を表す古いマーク。「昔、祖母が家の鍋やヤカン、私のシャツやパンツにまで名前代わりに書いてくれたマークなんです（笑）」。ロゴマークの打ち合わせは、コロナ禍だったためオンラインで何度も意見を出し合いました。

今後はSNSを活用するなど、プロモーションにも力を入れていきたいと考えている上條さん。より多くの人に葛温泉や高瀬館を知ってもらい、足を運んでほしいと話します。

「最近は、近隣に移住してきた外国人の方も好んでうちの温泉に訪れてくれています。泉質も環境も自慢できる良いお湯なので、もっと多くの人に知ってほしい。地域や行政とも協力しながら、多くの人に訪れてもらえる方法を考えていきたいです」

「長野県よろず支援拠点」で出会った観光業コンサルタントのサポートを受け、2022年に新しいロゴマークを作成

客室からは、高瀬渓谷の雄大な自然を眺める。全13室のアットホームな温泉宿

かつて高瀬川のほとりに立っていたが昭和44年の水害で流され、現在の場所に再建。登山の起点や下山後の疲れを癒す宿として人気

葛温泉 高瀬館
創業 | 明治時代ごろ
事業内容 | 温泉旅館、日帰り温泉の経営
〒398-0001 長野県大町市大字平高瀬入2118-13
Tel 0261-22-1446　HP https://www.takasekan.com/